

改定千代田区商工振興基本計画(素案)

千代田区

目 次

| | | |
|-----|-------------------|----|
| 第1章 | 計画改定の概要 | 1 |
| 第2章 | 千代田区を取り巻く社会・経済状況 | 3 |
| 第3章 | 千代田区の商工業の現状と課題 | 5 |
| 第4章 | 千代田区が目指す商工業振興の方向性 | 8 |
| 第5章 | 基本施策と事業計画 | 13 |
| 第6章 | 計画の推進に向けて | 26 |

第1章 計画改定の概要

1. 計画改定の背景と目的

経済のグローバル化が進展するなか、区内の中小企業を取り巻く環境は大きく変化しています。区の商工振興基本計画も策定から12年が経過しており、現下の経済情勢や直面する課題に対して十分な道筋を示すことができていません。こうした状況下において、今後の世界経済や消費構造を踏まえたマクロの視点で捉えた区独自の商工振興施策が求められています。

そこで、千代田区が持つポテンシャル（潜在的な能力）を掘り起こすとともに、それらを最大限に活かした施策を提示することで、新たな時代に即した千代田区の商工業における活動方針を示すこととします。

2. 計画の位置付け

千代田区第3次基本計画の商工振興部門における分野別計画であり、千代田区商工振興方針ならびに千代田区中小企業振興基本条例に基づく基本計画とします。

なお、商工振興方針および条例制定時の社会経済状況に変化はあるものの、目指すべき商工振興あるいは中小企業振興の理念は同一であることから、方針および条例はそのままにして基本計画を改定します。

3. 計画期間

平成24年度から平成28年度までの5年間とし、中長期的な展望も盛り込むこととします。

4. 商工振興基本計画の改定の流れ

千代田区商工振興基本計画の改定に当たって、次ページの通り、検討会議を開催する前に、2回の準備会議を行いました。この準備会議の議論を踏まえて約1年に渡って、7回の検討会議を開催し議論を深めました。これらの検討を踏まえて、当基本計画の改定は、関係機関・関係者が議論を積み重ねて、参加型で作った計画です。

【検討の経緯】

平成 22 年 6 月～7 月
(2 回開催)

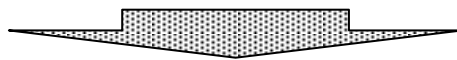
準備会議

【出席団体】

千代田区商店街連合会・千代田区商工業連合会
東京商工会議所千代田支部・まちみらい千代田
千代田区観光協会

【検討内容】

改定作業の進め方、意見交換 等
検討会議の概要、基本的な考え方 等



平成 22 年 11 月～
平成 23 年 9 月
(検討会議 7 回開催)

検討会議

【出席者】

資料編 6 7 頁を参照

【検討内容】

下表の通り。

【検討会議開催日程と検討内容】

| 会議 | 開催日 | 検討内容 |
|-------|-------------------|--------------------------|
| 第 1 回 | 平成 22 年 11 月 8 日 | 改定方針 (案)、千代田区の商工業の現況と課題 |
| 第 2 回 | 平成 22 年 12 月 13 日 | 区内商工業の課題の検討 |
| 第 3 回 | 平成 23 年 2 月 7 日 | 関連調査結果報告、千代田区の魅力と課題、基本理念 |
| 第 4 回 | 平成 23 年 4 月 21 日 | 基本理念、基本施策 |
| 第 5 回 | 平成 23 年 6 月 14 日 | 基本理念、基本施策、個別事業 |
| 第 6 回 | 平成 23 年 7 月 28 日 | 個別事業、素案まとめ |
| 第 7 回 | 平成 23 年 9 月 2 日 | 最終計画案の検討 |

第2章 千代田区を取り巻く社会・経済状況

1. 世界的に不安定な経済情勢

2008年のリーマン・ブラザーズの破綻を発端とした世界的な金融危機により、世界経済は急速に悪化し、我が国の経済も多大なる影響を受けました。その後、経済の回復を待たずして、欧州や米国では債務問題が生じるなど経済不安が続き、世界的に経済が低迷しています。我が国においても、円高やデフレといった経済環境を考慮すると、依然として厳しい経済情勢に置かれています。

2. アジア等の新興国における市場の成長

中国をはじめとする新興国・資源国の経済は旺盛な内需や海外からの資本流入を受け、急速な経済成長を遂げています。これらの市場に向けて、我が国の生産機能の海外移転が進んでおり、我が国の輸出額も、欧州・北米を抑えて、アジア地域への輸出額が増加しています。また、製造業においてはアジア等の新興国における製造業の技術力は急速に向上しており、国内外での価格競争が激しくなっています。

これら新興国では経済成長とともに、消費者の購買力も急伸しており、観光においても海外諸国への観光需要が高まりを見せ、我が国の観光産業にとっても大きな市場となっています。

3. 少子化・高齢化の進展

我が国の人口は、平成22年10月に1億2805万6千人※1となり、その後長期の人口減少過程に入り平成28年には1億2496万1千人に減少し、平成22年から平成28年にかけて、年少人口※2は13.2%から11.6%、高齢人口の割合は23.1%から27.6%※3になると予測されています。

千代田区の人口は平成22年10月に47,174人※4となり、その後平成42年まで微増していき、平成22年から平成27年にかけて年少人口の割合は、10.4%から9.9%に低下、高齢人口※5の割合は22.8%から23.2%へと高まると予測されています。このような少子・高齢化の進展は、地域住民を対象とする地域商業への

※1 平成22年10月1日現在 平成22年度国勢調査

※2 年少人口-0~14歳、高齢人口-65歳以上

※3 日本の将来推計人口平成18年2月推計(出生中位・死亡中位推計)、国立社会保障・人口問題研究所

※4 平成22年10月1日現在 平成22年度国勢調査

※5 『日本の市区町村別将来推計人口』(平成20年12月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

影響も大きく、少子・高齢化社会に対応した新たなサービスビジネスの動きも見られます。

4. ライフ・スタイルや価値観の多様化

働き方の多様化、女性の社会進出の進展、不安定な経済情勢や災害による価値観の変化等により、「個々人のライフ・スタイルの確立」や「物よりも心の豊かさを重視」「消費行動の変化」「家族との絆を重視」等といった方向に人々の意識や行動が変化・多様化する傾向が見られます。今後、こうした変化に対応したビジネスや商品の創出とともに、企業で働く人も企業活動だけでなく、地域社会に参加する人の増加が期待されるなど、企業や就労者とまちとの新しい関係づくりが重要となっています。

5. 情報通信技術（ICT）の急速な進展と展開

近年の情報通信技術は急速に進展しており、企業活動においては、情報通信技術を活用した効率化の推進や情報管理システムの向上等はもちろん、環境・エネルギー、医療・介護、観光・地域活性化等の分野において、新たな情報通信技術の導入による新ビジネスの芽も生まれています。また、市民の生活においても知識・情報の共有が進み、高質な教育サービスが受けられる等、暮らしの質を飛躍的に向上させていくサービスビジネスの展開が見られます。

6. 東日本大震災の影響

平成 23 年 3 月に東北地方太平洋沖で発生した東日本大震災は、未曾有の災害規模となり、日本経済に大きな影響を及ぼしました。関東圏においても、東京電力福島原子力発電所事故に端を発する電力供給への不安の拡大や事業所の国内外を含めた再配置化、国内外の来訪者の減少等、経済活動に多大な影響を及ぼしています。また、先行き不透明感の高まりから企業の投資意欲や家計の購買意欲が減退し、設備投資や個人消費も伸び悩んでいます。

一方では、近年の低炭素社会の実現や省エネルギーへの関心の高まりとともに、震災後の電力問題が契機となり、環境ビジネスの成長・拡大が予測されます。

第3章 千代田区の商工業の現状と課題

1. 千代田区の特徴

- (1) 充実した都市基盤
- (2) 豊富な観光資源
- (3) 昼間区民と来街者
- (4) 情報受発信の優位性

2. 特色ある地域の商業活動

- (1) 秋葉原地区
- (2) 小川町・駿河台地区
- (3) 神田神保町地区
- (4) 大丸有地区

3. 区内商業の現状

- (1) IT化の進展と生活スタイルの変化（都市型商店街への転化）
- (2) コンビニエンスストアやスーパーマーケットの進出
- (3) 中小ビル経営の停滞
- (4) 商店街活動の活性化

4. 地域産業の現状

- (1) 印刷・製本業
- (2) 繊維業

5. 商工業振興の課題

(1) 地域資源を活用した展開推進

①千代田が有するブランド力の活用

豊富な地域資源と情報発信力を有し、多様な情報発信の取組みが実施されていますが、千代田区全体としての情報発信の取組みにつながっていません。千代田のネームバリューを活用した地域ブランドの構築を図り、事業者の取引や事業拡大、新ビジネスの創出につなげていくことが期待されます。さらに、新たな情報通信技術等を活用しながら、広く国内外への情報発信を図り、来訪者の増加を図っていくことも望まれます。

②千代田における新事業創出支援の仕組みづくり

千代田区の充実したビジネス環境下で、起業や第二創業※6への取組が増加していくことが望まれます。新たな事業に取り組むことは容易ではありませんが、一定の支援を提供すると事業化率も上がり成功事例の増加が見込めます。そこで、起業や第二創業等への取組の成果を高めるため、地域として新事業創出をサポートする機能の構築を図っていくことが望まれます。また、このような起業や第二創業に対する充実した事業環境を広く情報発信をしていくことで、新事業創出に関心のある事業者が集まってくることを期待できます。

③商業の活性化に向けた賑わいづくり

千代田区が有する豊富な観光資源や充実した交通アクセスを活用し、賑わいづくりに向けた取組みを推進していくことが必要です。賑わいづくりには、集客力のある事業の実施や、安心して安全にまち歩きができる等の来訪者の受入環境の整備、幅広い情報発信が必要ですが、商工業者だけでなく、まちづくり団体やコミュニティ組織と連携して取組んでいくことが必要です。

(2) 交流・連携の場づくり

国内外から事業者や人が集まる魅力を有していながら、交流・連携につながる出会いの場が十分に機能しているとは言いがたい状況にあります。事業者間の交流・連携や、中小企業とまちづくり組織との交流・連携、大学との連携、区内のオリジナリティを有した地域間連携、他地域や震災被災地との広域的連携、昼間人口と地域との交流・連携等の多様な交流・連携の推進を図り、商工業の活性化につなげていくことが望まれます。また、実際に人々が集い交流できる拠点づくりも進めていくことが必要です。

※6 既に事業を営んでいる事業所の後継者などが業態転換や新規事業に進出することを指す。

（３）次世代の商工業を担う人材の育成

事業者の高齢化が進む中、一方では少子化が進展しており、次世代の商工業を担う人材の育成が課題となっています。経済のグローバル化により、企業活動もグローバル化が進み、育成する人材は国内外を問わず優秀な人材の登用や育成が必要となっています。

また地域やコミュニティとの連携を図っていくためには、地域の活性化を図っていくまちづくり人材の育成も重要になっています。

（４）事業基盤の強化

①中小企業の基盤強化

千代田区は他地域と比較すると大企業が多いものの、従業者数 30 人未満の事業所が全体の 87%を占めています。近年の厳しい経済環境の中で、大手製造業の海外への移転や円高不況等、中小企業を取り巻く環境も厳しさを増しており、コミュニティの担い手でもある中小事業者の事業活動を継続・発展させていくためには、さらなる中小企業の基盤強化を図っていくことが必要とされています。

②事業者の自主的取組みや連携による取組みを支援

商工業の振興は主体者である事業者が推進していくものと考えられます。事業者が時代や環境のトレンドを掴み、産業振興に向けて取組む能動的な活動や事業者が自発的に連携して取組む連携事業を支援する仕組みづくりが必要です。

③戦略的企業集積の形成

東日本大震災後、電力供給への不安や企業の立地計画の見直し等から、事業所が区外に移転していくことも考えられます。今後、事業者が安心して、高質な企業環境化で事業展開できる環境を担保し、事業所の立地継続を図っていく仕組みづくりが望まれます。

また事業所の継続立地とともに、千代田区の業務地としての魅力を活かしながら、次世代の産業を担う産業分野の集積を戦略的に形成していくことが必要です。

第4章 千代田区が目指す商工業振興の方向性

1. 計画体系図



コミュニティを大切に、魅力あるまちを創造します

| 基本理念 | 基本目標 ～基本理念を実現するための3大プロジェクト～ |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本・世界に向けて開かれたまち 2. さまざまな魅力があり、ビジネスチャンスあふれるまち 3. 生活者目線のビジネスを生み出すまち 4. 働く人が地域とつながり、新たな才能を見出せるまち | <ol style="list-style-type: none"> ①新しいビジネスの創造 ～ニュービジネス応援プロジェクト～ ②地域資源の掘り起こし ～協働まちづくり応援プロジェクト～ ③中小企業の基盤整備 ～元気な中小企業応援プロジェクト～ |

| | 基本施策 | 事業内容 |
|-------|-----------------|---|
| 顔づくり | ①千代田ブランドの向上 | <ol style="list-style-type: none"> 1 区内の地域特性を踏まえたブランドづくり 2 千代田ブランドの情報発信 3 安全・安心都市としてのブランド力の向上 |
| | ②起業支援の充実 | <ol style="list-style-type: none"> 4 起業家サポート体制の充実 5 起業支援施設の拡充 |
| | ③生活者関連産業の振興 | <ol style="list-style-type: none"> 6 コミュニティビジネスの創出支援 7 女性の社会進出サポートビジネスの創出支援 8 高齢者の生活サポートビジネスの創出支援 |
| | ④観光施策の推進 | <ol style="list-style-type: none"> 9 観光客受け入れ体制の整備 10 都市型観光の推進 11 観光イベントの開催 |
| | ⑤技術・技能の伝承・活用支援 | <ol style="list-style-type: none"> 12 産業技術・技能の記録・保存 13 区内主要産業(印刷・出版業等)の第二創業支援 |
| 絆づくり | ⑥地域間交流の活性化 | <ol style="list-style-type: none"> 1 農商工連携による地方都市との交流促進 2 災害被災地との連携強化 3 区内活動拠点の整備支援 |
| | ⑦地域内交流の活性化 | <ol style="list-style-type: none"> 4 異業種交流・同業種交流の促進 5 ビジネス交流拠点の整備 |
| | ⑧産学公連携の促進 | <ol style="list-style-type: none"> 6 区内大学・専修各種学校との連携促進 7 学生向け就業支援の充実 |
| 人づくり | ⑨国際化対応の推進 | <ol style="list-style-type: none"> 1 海外企業の受け入れ環境の充実 2 留学生受け入れ環境の充実 3 区内企業の海外展開支援 |
| | ⑩産業人の能力開発 | <ol style="list-style-type: none"> 4 事業者の意識改革・能力開発支援 5 事業後継者・技術者の育成支援 |
| | ⑪まちづくりの担い手育成 | <ol style="list-style-type: none"> 6 地域活動団体の活性化支援 7 商店街を活用した交流拠点づくり |
| | ⑫働く人の仕事・生活環境の充実 | <ol style="list-style-type: none"> 8 労働環境の改善に向けた啓発 9 就労・雇用支援の充実 10 ワークライフバランスの推進 |
| 土台づくり | ⑬商店・商店街の活性化 | <ol style="list-style-type: none"> 1 賑わいを創出するイベント等の推進 2 魅力ある個店づくりの促進 3 広域プロモーションの基盤整備支援 4 消費生活支援による購買促進 |
| | ⑭商工関係団体の組織強化 | <ol style="list-style-type: none"> 5 商工関係団体の活動支援 6 商工関係団体のネットワーク化の促進 |
| | ⑮中小ビルの活性化 | <ol style="list-style-type: none"> 7 地域と共に生きる中小ビル経営の推進 8 中小貸しビル業の経営改善支援 |
| | ⑯中小企業の経営支援 | <ol style="list-style-type: none"> 9 商工融資制度の充実 10 経営改善に向けた支援 11 経営に関する相談体制の充実 |
| | ⑰情報化の推進 | <ol style="list-style-type: none"> 12 ソーシャルメディアを活用した情報発信支援 13 新しい情報関連産業の集積促進 |

2. 基本理念

コミュニティを大切にし、魅力あるまちを創造します

千代田区第3次基本計画が目指す方向性のもとに、当計画では、商工振興に向けた施策を進める上で、コミュニティを大切にし、魅力あるまちを創造することを基本理念とし、下記の4つの方向性のもとに取り組んでいきます。

(1) 日本・世界に向けて開かれたまち（国際都市・観光都市の視点）

千代田区にはさまざまな歴史や文化・伝統があり、東京の顔・日本の玄関として千代田というブランドを作ってきました。これからは、そのブランド力をさらに活かし、地方にとっても海外にとっても、千代田区に訪れたいと思わせる魅力あるまち・おもてなしのまちにしていくことが望まれています。そうした誰もが集い、働き、学び、楽しむ千代田区では、さまざまな人々を受け容れ、交流する場を提供し、そこから生まれる新たな魅力や価値ある情報を内外に発信していくまちを目指します。

(2) さまざまな魅力があり、ビジネスチャンスあふれるまち（事業者の視点）

千代田区は地域の特性に応じたさまざまな魅力を持っています。そして、それらの魅力が混在しながらも融合し、お互いが認め合っているまちでもあります。これからは、そうした魅力を相互に関連させ、様々なビジネスチャンスを創出していくことで、新たな魅力を生み出すまちを目指します。

(3) 生活者目線のビジネスを生み出すまち（生活者の視点）

これまでは商工業者のための商工振興施策が優先されてきました。しかしながら、そこで生活している住民はもとより、昼間区民や事業者などを含めた生活者全体にとって、その場所が居心地のいい環境でなければ地域は活性化していきません。これからは生活者の視点で商工業のあり方も捉えていくことで、新たなビジネス・スタイルやライフ・スタイルを提案していくまちを目指します。

(4) 働く人が地域とつながり、新たな才能を見出せるまち（勤労者の視点）

これまでの就業スタイルは会社と自宅を往復するだけで、勤務地（千代田区）における社会活動への参加意識は希薄なままでした。これからは、ワークライフバランスの推進を図りつつ、新たな才能を開花させることはもちろんのこと、地域の人たちと活動するなど区内で有意義に過ごしてもらい、働く以外の喜び（楽しみ）を見つけることができるまちを目指します。

3. 基本目標

基本理念の実現に向けて、3つのプロジェクトを推進していきます。

①新しいビジネスの創造

～ニュービジネス応援プロジェクト～

時代の要請に応じた新たな事業展開を推進し、それぞれの地域の特性を活かした千代田ならではの取組みを後押ししていきます。

②地域資源の掘り起こし

～協働まちづくり応援プロジェクト～

区内で活動する事業者が地域の様々な主体と協働して、まちづくりに取り組むことができる環境を整えていきます。

③中小企業の基盤整備

～元気な中小企業応援プロジェクト～

区内の中小企業や商店街が主体的かつ自主的な事業活動が行えるように組織基盤の強化を進めていきます。